

船舶事故調査報告書

平成22年5月13日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲 也

委員 根本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成21年4月11日 23時49分ごろ
発生場所	静岡県大井川河口南方約1海里（M）の海岸 御前埼灯台から真方位015°10M付近 （概位 北緯34°45.4′ 東経138°16.6′）
事故調査の経過	平成21年4月27日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第三 ^{くめ} 丸、18.06トン ME2-3954（漁船登録番号）、個人所有 14.65m(Lr)×3.76m×1.26m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数130、昭和54年3月5日
乗組員等に関する情報	船長 男性 73歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年3月20日 免許証交付日 平成15年11月10日 （平成21年9月15日まで有効） 甲板員 男性 47歳 操縦免許証なし
死傷者等	なし
損傷	乗揚後解撤
事故の経過	本船は、船長ほか甲板員1人が乗り組み、御前埼の南方約30Mの漁場で操業を繰り返した後、平成21年4月11日16時ごろ漁場を離れて焼津漁港に向け帰航の途についた。 甲板員は、操舵室中段で単独で操舵に当たり、レーダーを1.5Mレンジで作動させ、約7ノット（kn）の速力で自動操舵とし、テレビドラマのDVD録画（以下「DVD」という。）を見ながら見張りをを行い航行した。 船長は、操舵室下段の居室で仮眠したり、たばこを吸ったりしながら焼津漁港に入港するのを待った。 甲板員は、御前埼南方3M付近でレーダーの警報音が鳴ったので警報音のスイッチを「接」から「断」とし、操舵室上段に昇って前方を航行中の船舶を避けた。 甲板員は、御前岩の東方約1Mを通過した後、おおむね焼津漁港に向く約010°～015°の針路として自動操舵とし、操舵室中段に降りて再びDVDを見始めたが、レーダーの物標警報装置のスイッチを「断」から

	<p>「接」の状態に戻すことを忘れた。</p> <p>本船は、駿河湾の風潮流で航行中に陸岸に寄せられたが、甲板員がDVDを見ていてこのことに気付かない間に、23時49分ごろ大井川河口南方約1Mの海岸に乗り揚げた。</p> <p>本船は、船体中央部船側外板にき裂が入り、数日後現場で撤去された。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 東、風速 2.3m/s、最大瞬間風速 4.5m/s (風向 東北東)</p> <p>海象：潮汐 下げ潮の末期</p> <p>特記事項：駿河湾では、黒潮が影響して流速が約1knを超えることもある。</p>	
その他の事項	<p>本船の操舵室は、操舵操縦ができる上段、操舵操縦もできて計器類が装備されている中段及び船長居室の下段に分かれており、魚群の発見や港内操船時には上段を、外洋航行時には中段を使用していた。</p> <p>本船のレーダーには物標警報装置が装備されており、他船や陸岸が設定範囲内の距離に近づくと警報が鳴る仕組みになっていて、警報装置を作動させるには、スイッチを「接」の状態にしておかなければならなかった。</p> <p>操舵室中段には、レーダー、GPS、魚群探知機、漁業無線装置及びコンパスの各計器類並びにDVD映像装置が設置されていた。</p> <p>操舵室中段からも三方の窓を通して見張りができた。</p> <p>船長は、自分が高齢であったことから、ふだんから経験豊富な甲板員に本船の操縦を任せていた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、駿河湾を焼津漁港に向け航行中、操船中の甲板員が、操舵室中段でDVDを見ていたことから、大井川南方の海岸に向けて航行していることに気付かず、同海岸に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、甲板員が経験豊富であったことから、本船の操縦を任せられたものと考えられる。</p> <p>本船は、甲板員が、御前崎南方3M付近で、レーダーの物標警報装置のスイッチを「断」の状態としたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が駿河湾を焼津漁港に向け航行中、操船中の甲板員が、DVDを見ていたため、大井川南方の海岸に向けて航行していることに気付かず、同海岸に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	